

八田御牧

甲斐源氏を支えた牛馬



百々遺跡1区18号土坑 馬が4頭並べて埋葬されている



溝跡とそこから発見された牛の歯。野牛島・西ノ久保遺跡



溝跡とそこから発見された馬の歯。坂ノ上姥神遺跡



穂見神社 銅製懸仏(御正鉢)

ふるさと文化伝承館エントランス展 「市内に広がるウシ・ウマの足跡」

百々遺跡から出土した馬の歯も展示中！

- 期間 5月18日(金)～8月1日(水) ■ 入館料 無料
- 時間 9:30～16:30 ■ 休館日 毎週木曜日
- 場所 ふるさと文化伝承館

お問合せ/文化財課 Tel.(282) 7269 ふるさと文化伝承館 Tel.(282) 7408

わけ、土坑に4頭の馬が並んで埋葬されていたのは、全国的にもめずらしい事例として注目されました。また、住居跡の多さから、百々遺跡は牧そのものではなく、牧を管理、運営する人々と関係した集落の跡と考えられています。

百々遺跡の調査以後、榎原・天神遺跡や野牛島・西ノ久保遺跡、坂ノ上姥神(うばがみ)遺跡など市内各地の遺跡から、古代から中世の牛馬の歯や骨が発見されています。それぞれが部分的な調査のため、八田御牧自体を特定するにはまだ至っていませんが改めて南アルプス市が牛馬と深いかわりのある地域であることが明らかになってきました。

甲斐源氏たちの資質は、こうした環境の中で育まれたものと思われれます。現代に少しずつ浮かび上がってきた八田御牧の姿は、新たな甲斐源氏の姿をも映し出しつつあるのです。

平清盛率いる平氏を倒し、鎌倉幕府の創建に活躍した甲斐源氏。そのなかでも南アルプス市に拠点を置いた加賀美遠光、小笠原長清親子は、幕府成立後も源頼朝に引き立てられ、政権の一翼を担うことになりました。遠光も息子長清も、武士にとって最も必要とされる資質「弓と馬」に秀で、とりわけ長清は「弓馬の四天王」にも数えられたほどの腕前だったと言われています。それでは、彼らの「弓と馬」の能力はどうやって培われたものだったのでしょうか。その答えを解く鍵は、「八田御牧(はったのみまき)」にありました。

高尾の穂見神社には、台座に座る男神像が毛彫りされた銅製の御正鉢(みしょうたい)が納められています。その神像の右側には「甲斐国八田御牧北鷹尾」、左側には「天福元年(1233)」の銘が刻まれています。これらから鎌倉時代の天福元年、鷹尾Ⅱ高尾山麓の御勅使川扇状地上に「八田御牧」と呼ばれる牧が広がっていたと考えられました。

しかし、牧の存在を示すその他の資料が見当たらず、場所や規模など、その実体はほとんどわかっていませんでした。

ところが、平成11年から発掘調査が行われた百々遺跡で、平安時代の集落とともに100個体以上と推測される牛馬の歯や骨が発見され、八田御牧の存在が初めて具体的な資料で裏付けされたのです。とり

(※) 牧…馬や牛を放し飼うための区域。公が整備した官牧のほか、公以外が整備した私牧があった。